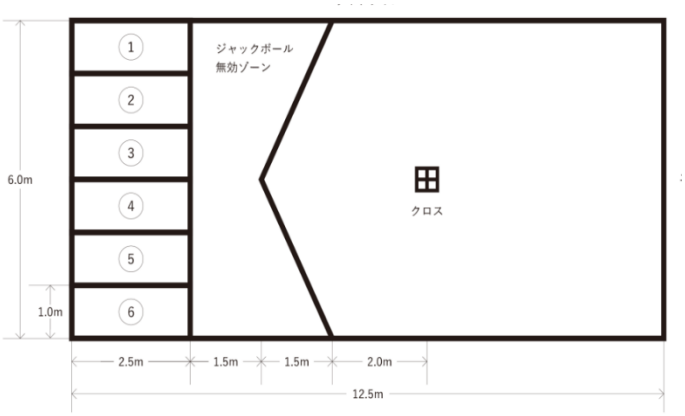
第3回交流ボッチャ大会　申し合わせ事項

1. コート

コートは右図のとおり



2. ボール

1)赤ボール6個、青ボール6個、白のジャックボール（目標球）1個で構成される。ボールの表面は革製（人口皮革含む）で大きさの基準は以下のとおり。

重量：275g±12g

周長：270㎜±8㎜

2)大会では個人所有のボールを使用しても構わないが、基準を満たしていない場合は主催者が準備したボールを使用する。

3. ランプ

1)投球補助具（ランプ）は、ボールを投げることができない選手が勾配を用いてボールをコートに送ることを目的としたものであり、ボールを加減、減速させる機器や照準器をつけてはならない。

2)ランプは最大最長の状態にして横に倒し、2.5m×1m エリア内に収まるような寸法でなければならない。

3)投球する際は選手自らがボールに触れたり、押すなどしてモーションを起こさなければならない。

4. 投球位置（スローイングボックス）の配置

赤ボールを投球するチームが2番・4番/青ボールを投球するチームが3番・5番

5. チーム構成

1)チームは2名で構成し、うち1名以上は障がいのある方とする。

2)競技スタイル（立位／座位）に応じて出場部門を決定する。

※立位者であっても、競技スタイルが座位の場合は「座位者の部」へ申し込み可能。

3)チーム構成は最大3名までとし、試合中のエンド間での選手入れ替えを認める。

※入れ替え後も障がいのある方が1名以上出場していること。

4)2 名で申し込み、試合当日に 1 名が欠場した場合は、当該チームは欠場とする。

6. 競技方法

1)試合は予選リーグは 1 試合2エンド、決勝トーナメントは1試合4エンドで行う。

各チームの投球時間はジャックボール投球を含め1エンド5分とする。

2)1エンドずつの得点を積み上げ、2エンドの総得点で勝敗を決める。

2エンド（4エンド）終了時に同点の場合はタイブレイク（各チーム任意の選手によるファイナルショット制度）で勝敗を決める。なお、タイブレイクでは各チームの投球時間は設定しない。

3)各リーグ内の順位決定については次の順で決定する。

① 勝った試合が多いチーム

② 勝ち試合が同じ場合は、直接対決で勝ったチーム

③ ①②で決まらない場合は得失点差の多いチーム

④ ③で決まらない場合は総得点の多いチーム

※①～④で決定しない場合はタイブレイク（ファイナルショット制度）で決定する。

7. 試合の展開

1)チーム招集時にキャプテンによるジャンケンにて投球順序(使用するボールの色)を決定する。

2)試合を始める前に、各チーム6球のカラーボールと1球のジャックボールを2分以内で投球練習することができる。6球のカラーボールと1球のジャックボールを全て投げ切るか、2分が経過すると練習終了となる。

3)ジャックボールを投球する赤チームの選手に手渡し、審判が「ジャックボールプリーズ」というコールをもって試合開始。

4)ジャックボールが有効だった場合、続けて同じ人が赤ボールを投げる。ジャックボールが無効の場合は青の1番がジャックボールを投げる。

5)赤の1球目が投球できた場合、青の 1 球目を投球する。それ以降はジャックボールに、より遠い位置にあるチームが投げる。

6)両チームが全てのボールを投げ終わったら得点をつける。審判がジャックボールを取り上げた時点でエンドが終了する。　※2 エンド目は青が先攻(ジャックボール投球)となり同じように試合を行う。

7)スローイングボックス内であればどこから投げても良い。また、自チームの投球指示が出されているときに限り、チーム内(選手同士)で相談しても構わない。

8)没収試合(不戦勝)となった場合、不戦勝サイドの得点を“6”、不戦敗サイドの得点を“0”とする。両サイドが棄権等で没収試合となった場合、両サイド共に「0-6」での不戦敗となる。

8. ランプ介助者、その他介助者について

1)ランプ介助者は試合中、コートに背を向け振り返ることはできない。また、競技についての助言もできない。

2)その他介助者は選手の移動(車いすの移動、方向転換など)や投球順を助言する等、投球することに対して補助する者とし、競技に介入する助言はできない。

9. 違反行為について(注意事項)

本大会では以下の違反行為によるペナルティスローはありませんが、審判からの声掛けおよび場合によってはリトラクションボール(ボール除去)や投げ直しを行うことがあります。十分に注意していただき、スムーズな試合進行にご協力をお願いします。

・ラインを踏む、もしくはボックスの外に足や補装具が接地した状態で投球したとき。
・審判の指示がある前に投球する。また指示がない選手が投球したとき。
・ランプ介助者が試合中にコートを見たり、ランプ介助者およびその他介助者が競技に介入する所作を審判が認めたとき。
・その他、この申合わせ事項にない状況があった場合、全てその大会主催者の判断が尊重される。